

杉戸町立高野台小学校 令和6年度 学校評価(学校自己評価・学校関係者評価)

評価項目	目標	具体的取組	指標 (指標ごとの評価)	自己評価		改善策	学校関係者評価	
				評価	達成状況 (成果・課題)		評価	意見・要望・支援策等
確かな学力	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した単元計画、指導方法の実践 ○日々の授業において、個人、ペア、グループなど目的に応じた様々な形態で、相手意識・目的意識をもった学び合いの実践	○学校アンケート(知及び学習に関する項目)【児童・保護者・職員平均93%以上】※令和5年度87.3%	B	○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し単元計画を立て、自由進度学習等を用いて授業を実施した。児童が学びの見通しをもち、進んで学びに向かう姿も多く見られるようになった。特に見通しがもてるような次時の学習を予告することで、自学で学びを深めてくる児童が増えてきた。 【知及び学習に関する項目83.4%】 ○家庭学習については自分事となるようにさらなる取組が必要。 ○サマースクール、学力向上週間を行い、基礎学力向上を図った。 【家庭学習87.5%】	○児童が学びを自分事と捉え、目的意識をもち、主体的に取り組めるようにするために、自分自身の課題を自分自身で把握し、見通しをもって学んでいく場面を学習に取り入れていく。 ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を引き続き行い、児童の資質・能力を育む。 ○宿題を含む家庭学習は、家庭で着実に見届け、定着を図っていくものであることを繰り返し保護者に伝え、家庭と連携した基礎学力向上体制を構築していく。また、目的をもって授業に取り組むための家庭での自学の充実を図る。	A	○協働的な学びの場での話し合いや困っている子がいる時の助け合い、教え合いが素晴らしい。どの子も自分の考えを気兼ねなく言っている。 ○個別最適な学びと協働的な学びを掲げて数年、授業に活気があり、子供たちが生き生きと学習に取り組んでいるように感じる。 ○学校が考える家庭学習は、保護者と学校が協力した上で目的をもった自学の実施、家庭で着実に見届け・定着を図るということだが、保護者の理解が十分とはいえない。学級懇談会や学校だより等で「家庭で着実にも見届け」ということを繰り返し伝える必要がある。 ○自由進度学習の成果がみられている。達成率向上に期待している。 ○ICT化が進み、筆記用具で各場面が減少していることが気になる。 ○サマースクールや学力向上週間に算数・国語だけでなく英語・理科・社会等もボランティアを活用してもいいのではないだろうか。 ○地域との連携にはボランティアさんの活動が一部になっている感じがするので、今後どのように増やしていけるかが課題。PTAに依頼し、学習ボランティアを集める手もよいと思う。 ○読書の取組啓発は継続が必要。全校での読書タイム・朝読書・家庭学習に読書を位置付けてみるのはいかがでしょうか。
	家庭(地域)と連携した家庭学習・基礎学力の定着	○保護者と学校で協力した上での目的をもった家庭学習・自学の実施 ○基礎学力定着のためのサマースクール、学力向上週間の実施	○学校アンケート家庭学習【児童・保護者平均85%以上】※令和5年度82.4%	A				
豊かな心	自他ともに大切に、多くの人々と協働していく児童の育成	○全教育活動を通し、自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション力、やり抜く力等の非認知能力の育成(きらりカード、校長賞等) ○規範意識を高めるとともに、学校内外でもあいさつのできる児童の育成	○学校アンケート(徳に関する項目)【児童・保護者・職員平均93%以上】※令和5年度86.1%	B	○きらりカードや自分のよさを他者から伝える活動を全学年で共通理解のもと行うことができた。 ○学校行事も活用し、全学年できらりカードの交換を実施した。 ○「進んであいさつする」について、課題が残った。引き続き指導を徹底していく。 【徳 87.3%】	○自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション力、やりぬく力等の非認知能力は生きる力の根幹となるものであることから、今後も全教育活動で育む取組を実施していく。 ○来年度も生活目標に「あいさつ」の項目を位置づけ、校内のあいさつだけでなく、関わってくれている方すべてにあいさつをする大切さ、必要性を繰り返し指導し、感謝の心を育んでいく。	B	○きらりカード、校長賞、ぼかぼか言葉などで子供たちの本来もっている心の豊かさを引き出す工夫がとても良い。「ぼかぼか言葉」というのが全学年に定着しており、意識して使っていることがすばらしい。 ○あいさつに差がある。声を出してあいさつをすることやあいさつの大切さを今後も繰り返し指導してもらいたい。ゲーム感覚で取り組んでいくのも効果があるのではないだろうか。下校時に何と言ったらよいのかあいさつの言葉がわからない子供もいるようである。あいさつは常に課題が挙がっているので、保護者にも引き続きお願いをしていく必要がある。 ○1～6年生全員で取り組める活動を通じて、学校の色・文化をつくっていく必要性を感じる。
健やかな体	たくましく生き抜く児童の育成	○何事にも根気強く、あきらめずに取り組む児童の育成 ○体育の授業の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、運動好きな児童の育成(思いっきり汗をかく体育授業) ○家庭と連携した規則正しい生活習慣の向上(早寝・早起き・朝ごはん、十分な睡眠の啓発)	○学校アンケート(体に関する項目)【児童・保護者・職員平均90%以上】※令和5年度81.0%	B	○新体力テストの結果は、男子が66.7%、女子が58.3%県平均を上回っているが、昨年度よりは男女とも13%下がっている。「進んで運動する」にはつながっていない。 【体 82.4%】	○引き続きロング昼休みを設定し、外遊びの奨励を積極的に行っていく。 ○体育授業の充実を図り、引き続き児童が多様な動きができるようにし、運動の楽しさを味わえるようにしていく。	B	○「苦手なことでも最後まで諦めずに取り組んでいる」の項目が少し向上したことについてはよかったと思う。さらに体育のふりかえりで最後まで諦めずに頑張ったことが書けるようになるとうい。 ○運動量が二極化しており、学校だけで体力をつけるのは難しいが、学校で運動の楽しさを味わえるように工夫しているところがよいと思う。 ○保護者も運動をする機会がないのではないだろうか。運動会に保護者を巻き込むなどし、運動会を充実させることで向上が見込まれるのではないだろうか。 ○家庭で「早寝・早起き・朝ごはん」の基本的な習慣を身につけてほしい。 ○体力向上に向けたプログラム設定が必要ではないか。ロングの昼休みに先生も含め、全校児童で遊んだりして体を動かすこともよいのではないだろうか。
学校独自	家庭・地域とともにある学校づくりの推進	○学校の取組を積極的に家庭・地域へ学校だより、HP等で発信・公開 ○学校運営協議会を中心に学校・家庭・地域が協働して子供たちを育む取組の実施	○学校アンケート(全般に関する項目)【保護者・職員平均95%以上】※令和5年度93.6% ○HP更新毎日	A	○HPや学校だより等で、学校の取組を積極的に発信するとともに、学校運営協議会での内容を、知らせた。 【全般93.5% HP毎日更新】 ○教職員の働き方改革の取組を、保護者、地域へ紹介することはできた。協力体制の構築は、今後も課題である。 ○授業時数・日課表の見直し等、新たな業務改善を図ることができた。在校等時間については今後も削減できるように努める。 【全教職員超過時間月45時間は達成、年360時間以内超過時間未達成】	○引き続きHPや学校だより、学級懇談会全体会等で、学校の取組を積極的に配信し、協力体制を築いていく。 ○教員が子供と向き合い、質の高い教育を行っていくための時間を確保するために、教員の業務の見直しを図り、できることは直ちに実施していく。 ・余剰時数、授業時数の削減 ・日課表の見直し ・定例集金方法の変更(R7から口座振り込み) ・プール清掃の業者委託 ・学校だより、学校からの通知、アンケートの電子化 ・宿題の実施方法の見直し 等	A	○HPの更新・説明、「すぐえる」で写真を公開するなど、様々な教育活動がよく伝えられていた。内容が多岐にわたり昨年以上に充実していた。 ○ITを活用した効率化が図れている。 ○校内のモニター活用について、学校公開のお知らせ時にモニターに映し出されている内容を入れ、保護者にも意識をして見ていただけるとよい。 ○学校への児童がいない家庭(町民)の関心は低いレベルである。 ○児童が元気で明るく学校に行けることが一番であり、児童にとって居心地のいい学校を目指してほしい。 ○教員の働き方改革はどんどん進めていく必要がある。教師でなくてもできる事は、外部に委託するとよい。 ○働き方改革をしていくには、家庭・保護者の理解と協力が必要。理解が得られるようHPや学校だよりで発信するとよいのでは。 ○保護者アンケートの記述において、「旗当番の際に自分の子供を送り出す相当前に家を出なければならない」とあった。今後、本協議会においても話し合い、登校指導をする保護者の子の安全も考慮していくべきではないだろうか。 ○おやじの会の活動を学校からも案内してみてもどうか。タイムカプセルの穴掘りも6年生とその保護者でやられたら良いと思う。今のやり方では、再来年やれなくなってしまう。 ○プール清掃については、町予算で支出できるよう働きかけをするとよい。
	子供たちと向き合い、質の高い教育活動の推進	○児童が安心して学べる環境の構築(生活アンケート等によるいじめの早期発見・早期対応) ○不登校児童・登校しぶり児童への対応(空き教室からのオンライン授業参加等、学習を保障) ○一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の推進 ○働き方改革への協力体制の構築(保護者・地域へ取組紹介)	○学校アンケート(全体・2.徳に関する項目-12)【児童・保護者・職員平均95%以上】※令和5年度92.9% ○不登校児童数の減少 ○学校評価(働き方改革に関する項目)【教職員100%】 ○全教職員超過時間月45時間、年360時間以内※令和5年度 超過時間未達成	B				